思考力とは何か

思考力検定が定義する「考える力」とその評価の考え方

思考力検定における概念定義と 評価枠組みの整理資料

iML 国際算数・数学能力検定協会

2026 年 3 月 初版

1. 思考力という言葉の曖昧さを解消する

現状

「思考力」という言葉は広く使われているが、
その意味や評価の仕方は必ずしも明確ではない。

思考力検定のアプローチ

「思考力」を定義し、
構造的に捉え、
次の学びにつなげること
を目的として設計。

2. 思考力の定義

思考力検定では、「思考力」を次のように定義。

「思考力」とは、最適な解に至るまでの筋道を、どれだけ多く、どれだけ正確に立てられるかという力。

この定義は、思考の過程を具体的な観点へと分解し、評価可能な形で捉えることを前提とする。

また、単に正解にたどり着いたかどうかではなく、どのような考え方を用い、どのようにそれらを組み立てたかを重視する。

3. なぜ算数・数学で測るのか

思考力を捉えるための手段として
算数・数学を用いる。

算数・数学の特性

条件が明確

前提条件が設定されているため、
思考のスタートラインが揃う。

筋道の比較

思考の筋道（プロセス）を
客観的に比較しやすい。

分類が容易

内容や思考の種類を分類、
構造化しやすい。

思考の過程を複数の観点から整理し、構造的に分析することが可能になる。

4. 思考力検定における評価の考え方

思考力検定では、受検結果を２つの側面 から分析。

この２つの分析を組み合わせることで、受検者の思考の特徴や傾向を多面的に捉える。

(1) 算数・数学の内容の「５つの観点」

数と量

空間と形

変化と関係

データと
不確実性

論理

どの内容領域を活用して考えているかを把握する。

(2) 思考力の「３つの観点」

情報・条件を
使いこなす力

筋道を立てて
考える力

ものの形を
認識・想像する力

思考の働き方を３つの観点から捉える。

5. 測定から学習設計へ

・思考力検定の評価は、点数を示すこと自体を目的としていない。
・評価結果から、どの内容の観点が使われているか、どの思考力の観点が十分に機能しているかを把握することで、次にどのような学習や指導が必要かを考えるための手がかりを得る。

思考力検定は、「学習設計の出発点を示す評価」として位置づけられている。

6. おわりに

具体

思考力という概念を抽象的に扱うのではなく、
定義し、評価可能な形へと分解し、活用
するための枠組みを構築する。

教育や学習の場で活かせる
枠組みを提供する。

抽象

思考力検定 概念整理シート

定義

最適な解に至るまでの筋道を、どれだけ多く、どれだけ正確に立てられるか。

算数の内容の側面

- 数と量
- 空間と形
- 変化と関係
- データと不確実性
- 論理

思考力の側面

- 情報・条件を使いこなす力
- 筋道を立てて考える力
- ものの形を認識・想像する力

目的

測定から学習設計へ